

水稲種子消毒で利用できる生物農薬の効果的な使用方法

特別栽培場面で水稲に使用できる生物農薬はエコホープ、エコホープドライ(トリコデルマ・アトロビリデ SKT-1 水和剤)、モミゲンキ水和剤(シュードモナス CAB-02 水和剤)で、対象病害に対して安定的な効果を得るためには、その使い方が重要なポイントとなります。

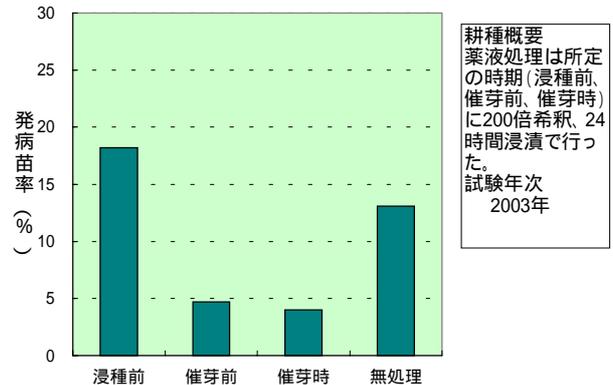
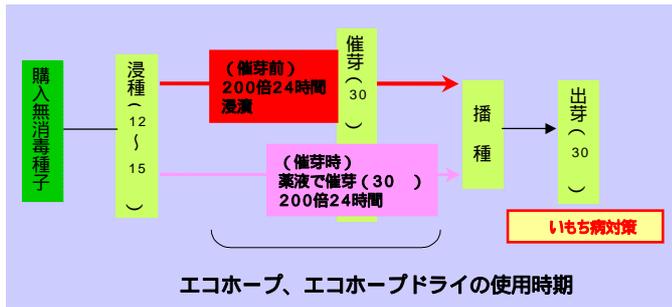
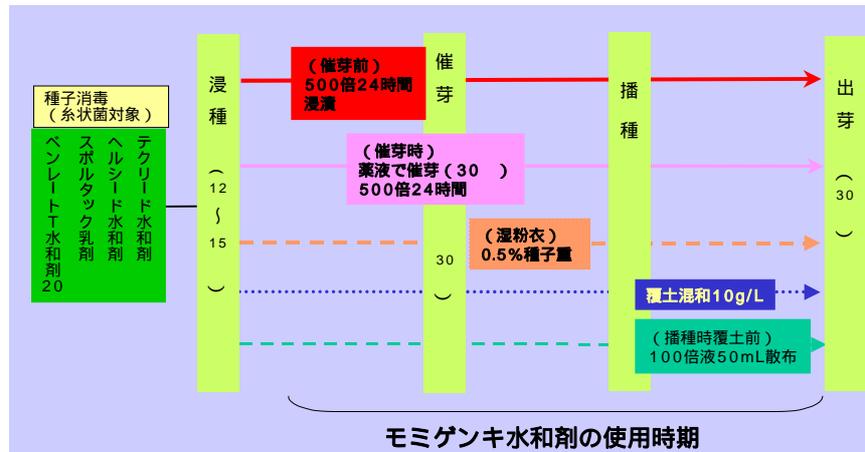


図 エコホープドライの苗立枯細菌病に対する処理時期別の効果

浸種前処理は防除効果が低いので、薬剤の**浸漬処理は催芽前または催芽時に行います**



低温での薬液処理や浸種は防除効果が安定しないので、薬液処理や浸種は12~15で行います。エコホープドライは乾燥製剤であり、有用微生物の活性化まで時間を要します。薬液の水温を所定温度に予め上げてから種物を浸漬すると効果が安定します。

表 水稲種子消毒に用いる生物農薬の対象病害と効果

| | ばか苗病 | いもち病 | もみ枯細菌病 | 苗立枯細菌病 | 苗立枯病(リゾプス菌) |
|----------|------|------|--------|--------|-------------|
| エコホープ | | | | | |
| エコホープドライ | | | | | |
| モミゲンキ水和剤 | | | | | |

凡例 農業研究センターが防除効果の面から判断できるものについて
 :優れる :有効 :劣る 空欄:未登録



図 種物の周りで増殖したエコホープ